

2022年度 キャリア戦略(結果)

PLAN(計画)	DO(実施)	CHECK(評価)	ACTION(次への改善)
P:目標を策定、実現するための具体的な方法を考える。	D:計画を実行しその効果を測定する。 実施状況(実施率)	C:目標とその実践の差異、実践した行動の評価・分析を行う。 評価	A:課題や問題点についての改善、対策を行い、次への「PLAN」へ繋げる
1. ■就職内定率量的向上 98%以上 ■実就職率改善 93%以上	<p><外国語学部> ・就職率、実就職率向上策として、4年生対象のWeeklyオンライン学内企業説明会開催時期を8月まで拡張し招聘企業を増やす。 ・2020年度後期に実施した全員面談で構築したゼミ担当職員と学生のパイプをWeeklyオンライン学内企業説明会、個別面談への誘導に活用する。 ・対面授業が増加するので学内掲示を充実させ、ゼミ担当の先生方にキャリアイベントのご紹介を引き続きお願いする。</p> <p>5月末現在学部内定率 = 24.7% 同 実就職率 = 24.1%</p> <p><経営学部> ・就職率、実就職率向上策として、4年生対象のWeeklyオンライン学内企業説明会開催時期を8月まで拡張し招聘企業を増やす。 ・2020年度後期に実施した全員面談で構築したゼミ担当職員と学生のパイプをWeeklyオンライン学内企業説明会、個別面談への誘導に活用する。 ・対面授業が増加するので学内掲示を充実させ、ゼミ担当の先生方にキャリアイベントのご紹介を引き続きお願いする。</p> <p>5月末現在学部内定率 = 26.2% 同 実就職率 = 25.7%</p> <p><人間学部> 前年度の実績を超えるよう、近年整備されてきたオンラインでのサポートに加え、コロナ後を見据えて、可能な限り従来型の対面によるサポートを取り入れる。教職協働しながら、個別面談、各イベント、授業でのイベント告知などを積極的におこない、学生のキャリア意識の向上を図る。</p> <p>5月末現在学部内定率 = 12.7% 同 実就職率 = 12.4%</p> <p><保健医療技術学部> オンラインによる就職説明会を開催し、学生と求人サイドとの質疑応答の機会を提供し、学生と求人サイドをつなぐ機会を提供するとともに教員・職員によるサポートにより「成長できる就職先探しをサポートする」と学生の満足度の高い就職を支援する。</p> <p>5月末現在学部内定率 = 36.9% 同 実就職率 = 同率 看護学科のみの就活結果</p>	<p><外国語学部> ・4年生対象のWeeklyオンライン学内企業説明会開催時期を3月3日から7月28日まで拡張し、参加企業数28社、内定者数14名であった。 ・3年生の進路調査提出方法を提出までの期間短縮と面談実施率アップを目的に郵送から窓口提出に変更した。 ・キャリアイベント告知チラシを学内掲示板およびキャリアセンター内に掲示し、学生への周知を図っている。</p> <p>10月1日現在率 = 57.9%(昨年同時期54.8%) 実就職率 = 55.4%(昨年同時期51.9%)</p> <p><経営学部> ・4年生対象のWeeklyオンライン学内企業説明会開催時期を3月3日から7月28日まで拡張し参加企業数28社、内定者数14名であった。 ・3年生の進路調査提出方法を提出までの期間短縮と面談実施率アップを目的に郵送から窓口提出に変更した。 ・キャリアイベント告知チラシを学内掲示板およびキャリアセンター内に掲示し、学生への周知を図っている。</p> <p>10月1日現在率 = 63.7% 実就職率 = 59.1%</p> <p><人間学部> 昨年度に比べて一般企業就職の内定進捗が大幅に改善している。特にいつても出足の遅い心理学科ではあるが、2021年度=42.0%<2022年度=72.4%と+30.4%早い進捗となっている。この結果を反映した要因としては、前2年間のコロナ禍での就活から改善した環境に併せて、3年生の夏季からのインターンシップへの参加の向上など、前倒しでの就活に沿って、対面での就活支援もかなり復活したことも功を奏した進捗となっている。専門職は例年通りの動き。</p> <p>10月1日現在学部内定率 = 49.9% J社 = 66.7% 福祉Mgt. = 68.8% 福祉Social = 29.0% 児童発達 = 29.3% 心理 = 72.4% 同日現在学部実就職率 = 35.8%</p> <p>10月1日現在学部内定率 = 68.4% 理学療法 = 71.8% 作業療法 = 80.0% 臨床検査 = 17.7% 看護 = 100% 同日現在学部実就職率 = 51.0%</p>	<p><外国語学部> ・キャリア教育の改善を図り、国際ビジネス上位クラスは、10月1日時点での就職内定率90%と成果あり。新たな課題として他クラスの対策を検討の上実践する。 ・連絡がとれない学生への架電、チャット、ゼミ担当の先生方への協力の依頼を通じて学生の動きを把握し内定獲得まで個別支援を継続する。 ・実就職率改善に向けて、3年生4年生は年度初めのキャリアガイダンス、3年生の全員個別面談を通じて就職することへの意識を高め、進路が「就職以外」の学生を減らし実就職率向上を図る。</p> <p><経営学部> ・就職内定率向上に向けて、ゼミ担当職員からのチャット、架電等による連絡を継続する。 ・連絡がとれない学生への架電、チャット、ゼミ担当の先生方への協力の依頼を通じて学生の動きを把握し内定獲得まで個別支援を継続する。 ・実就職率改善に向けて、3年生4年生は年度初めのキャリアガイダンス、3年生の全員個別面談を通じて就職することへの意識を高め、進路が「就職以外」の学生を減らし実就職率向上を図る。</p> <p><人間学部>この段階ではまだ何とも評価はできないが、前年度は学生へのイベント告知の仕方などが、課題として浮かび上がっているため、人間福祉・児童発達3年生への就職ガイダンスをきめ細かく行うことと、一般企業就職対象者へ年明け2月6・7日に予定している「学内業界・企業研究セミナー」についても、本年度は期末試験終了後の参加しやすい日程に設定し、早目の告知と参加促進を徹底し、就活のスタートアップを全面的に支援していきたいと考えている。</p> <p><保健医療技術学部> 改革総合支援事業の一環として、卒業生の就職先に、本学の学生や教育などに求めるものをヒヤリングし、その回答を学部進路支援委員会にて協議を行ない、次年度以降への学生指導・支援に反映させていくこと、また、例年晩秋に実施している卒業3年経過の卒業生ならびに就職先アンケートも、それらの結果を分析して、同様に次年度以降への学生指導・支援に反映させていくこととする。それらのことにより、学生と就職先とのマッチング度合いをさらに向上させ、短期に確実で満足度の高い就活と実績づくりに貢献・反映させていきたいと考えている。</p>

2023年度 キャリア戦略

PLAN(計画)
P:目標を策定、実現するための具体的な方法を考える。
<p><外国語学部> ■就職内定率量的向上 97%以上 ■実就職率 93%以上 <継続課題></p> <p><経営学部> ■就職内定率量的向上 98%以上 ■実就職率改善 93%以上</p> <p><人間学部> ■就職内定率量的向上 98%以上(前年度実績98.4%) ■実就職率改善 93%以上(前年度実績81.8%)</p> <p><保健医療技術学部> ■就職内定率 100% ■実就職率改善 98%以上 早期に看護学科、臨床検査学科にて就職ガイダンスを実施 7月 理学療法学科 就職ガイダンス 8月 作業療法学科 就職ガイダンス 8月 PTOT合同オンライン就職説明会 各学科における就職先探しの個別支援 国家合格率の向上:全国模試を支援</p>

2022年度 キャリア戦略(結果)

PLAN(計画)	DO(実施)		CHECK(評価)		ACTION(次への改善)
P:目標を策定、実現するための具体的な方法を考える。	D:計画を実行しその効果を測定する。	実施状況(実施率)	C:目標とその実践の差異、実践した行動の評価・分析を行う。	評価の理由/課題/根拠データ等	A:課題や問題点についての改善、対策を行い、次への「PLAN」へ繋げる
2. 就職内定率質的向上 顧客から選ばれる企業内定向上 ①上場企業・関連企業50%以上 (キャリア戦略会議目標数値)	<外国語学部> ①達成に向け以下の施策を実施する。 ・筆記試験得点力向上のため、引き続き公務員試験対策講座を上場企業・関連企業希望者にも開放する。 ・OBOG就職相談会等のキャリアイベントに招聘する企業の上場企業・関連企業率を高める。	上場・上場関連企業への内定率 = 25.8%	<外国語学部> ・講座受講者数は公務員講座スタートアップ講座2名、教養講座5名である。 ・OBOG就職相談会等のキャリアイベントに招聘する企業の選出は11月、12月に行う。	10月1日 上場・上場関連企業内定率 = 37.3%(昨年同時期31.8%) 営業職・総合職就職者比率 56.7%(昨年同時期43.9%)	<外国語学部> ・今後も個別面談を通して採用を継続している①上場企業・関連企業、営業職・総合職募集の求人を紹介していく。 ・講座受講者数は公務員講座スタートアップ講座2名、教養講座5名である。
	<経営学部> ①達成に向け以下の施策を実施する。 ・筆記試験得点力向上のため、引き続き公務員試験対策講座を上場企業・関連企業希望者にも開放する。 ・OBOG就職相談会等のキャリアイベントに招聘する企業の上場企業・関連企業率を高める。	上場・上場関連企業への内定率 = 25.0%	<経営学部> ・講座受講者数は公務員講座スタートアップ講座4名、教養講座5名、直前講座1名である。 ・OBOG就職相談会等のキャリアイベントの招聘企業の選出は11月、12月に行う。	10月1日 上場・上場関連企業内定率 = 37.8%	<経営学部> ・今後も個別面談を通して採用を継続している①上場企業・関連企業を紹介する。 ・講座受講者数は公務員講座スタートアップ講座4名、教養講座5名、直前講座1名である。
	<人間学部> 前年度は最終的に上場・上場関連企業への就職率が30%を下回ったため、今年度はこの水準以上を目下の目標として目指す。	上場・上場関連企業への内定率 = 26.8%	<人間学部> 上記1と同様。本年度の実績については、コミ社・福祉Mgt.・心理の一般職希望社に絞れば、10月時点での内定率はほぼ7割まで達成している。専門職については、就活時期が異なることから、この評価からは除外する必要がある。	10月1日 現在 上場・上場関連企業への内定率 = 24.3% Jミ社 = 12.0% 福祉児発 = 14.3% 心理 = 34.9%	<人間学部> コンスタントに公務員への就職を輩出できるよう、今後も支援諸施策を継続していく方針。ただし、公務員試験合格者を増やすのは容易ではなく、入学時点での学力アップも必要と考える。
	<保健医療技術学部> 「より成長できる就職先探しをサポートする」ことで学生の満足度の高い就職を支援するとともに就職率100%の達成を目指す。		<保健医療技術学部> 医療機関のため該当なし		<保健医療技術学部> 医療機関のため該当なし

2023年度 キャリア戦略

PLAN(計画)
P:目標を策定、実現するための具体的な方法を考える。
<外国語学部> ■就職内定率質的向上 顧客から選ばれる企業内定獲得向上 高校生・保護者への訴求効果のある企業内定獲得 ①学生へのチャレンジ促し ②難関企業内定獲得 <継続課題>
<経営学部> ■就職内定率質的向上 顧客から選ばれる企業内定獲得向上 ①上場企業・関連企業50%以上 (キャリア戦略会議目標数値)
<人間学部> ■就職内定率質的向上 顧客から選ばれる企業内定向上 ①上場企業・関連企業35%以上 (学部キャリア委員会目標値)
<保健医療技術学部> 医療機関のため該当なし

2022年度 キャリア戦略(結果)

PLAN(計画)	DO(実施)		CHECK(評価)		ACTION(次への改善)
P:目標を策定、実現するための具体的な方法を考える。	D:計画を実行しその効果を測定する。	実施状況(実施率)	C:目標とその実践の差異、実践した行動の評価・分析を行う。	評価の理由/課題/根拠データ等	A:課題や問題点についての改善、対策を行い、次への「PLAN」へ繋げる
<p>3. ■一般企業就職希望者就職内定率時期的向上 10月1日内定率80%以上(前年実績56.6%)</p>	<p><外国語学部> ・10月1日就職率向上策として、4年生対象のWeeklyオンライン学内企業説明会開催時期を8月まで拡張し招聘企業を増やす。 ・2020年度後期に実施した全員面談で構築したゼミ担当職員と学生のパイプをWeeklyオンライン学内企業説明会、個別面談への誘導に活用する。 ・対面授業が増加するので学内掲示を充実させ、ゼミ担当の先生方にキャリアイベントのご紹介を引き続きお願いします。</p> <p><経営学部> ・10月1日就職率向上策として、4年生対象のWeeklyオンライン学内企業説明会開催時期を8月まで拡張し招聘企業を増やす。 ・2020年度後期に実施した全員面談で構築したゼミ担当職員と学生のパイプをWeeklyオンライン学内企業説明会、個別面談への誘導に活用する。 ・対面授業が増加するので学内掲示を充実させ、ゼミ担当の先生方にキャリアイベントのご紹介を引き続きお願いします。</p> <p><人間学部> 前年度一般企業就職希望者における10月1日内定率の実績は50%未満であったため、今年度は60%以上を以下の目標として目指す。</p> <p><保健医療技術学部> 看護学科、4月から就職試験が始まるので前年度の3月に就職ガイダンスを来ない就職指導を進めていく。 臨床検査学科 夏休み前に就職ガイダンスを行い、就職指導を進める。 理学療法学科、作業療法学科は7月末まで臨床実習のため、その後、就職ガイダンス、PTOT合同のWeb上の就職説明会を行い、その後、就職指導を進めていく。 学部全体で就職率100%を目標とする。</p>	<p>・Weeklyオンライン学内企業説明会を3月から実施した。 ・ゼミ担当職員が個別面談を実施している。</p> <p>・Weeklyオンライン学内企業説明会を3月から実施し、内定者も出ている。 ・ゼミ担当職員が個別面談を実施している。</p> <p>・本郷キャンパス ・Weeklyオンライン学内企業説明会を3月から実施した。 ・ゼミ担当職員が個別面談を実施している。</p>	<p><外国語学部> 10月1日 内定率 =57.9% 実就職率 =55.4%</p> <p>2月1日時点クラス別内定率 国際ビジネス上位クラス62名 95.2% 国際ビジネス下位クラス61名 60.4% 国際教養上位クラス38名 71.1% 国際教養下位クラス52名位 69.2% 10月1日就職内定率57.9%(前年実績56.6%)である。 ・4年生対象のWeeklyオンライン学内企業説明会開催時期を3月3日から7月28日まで拡張し参加企業数28社、内定者数14名であった。</p> <p>10月1日 内定率 =63.7% 実就職率 =59.1%</p> <p>10月1日 現在 コム社 =66.7% 福祉Mgt. =68.8% 心理 =72.4% 同日現在 学部 実就職率 =35.8%</p> <p>10月1日 現在 学部内定率 =68.4% 同実就職率=68.4%</p> <p>・理学療法学科=71.8% ・作業療法学科=80.0% ・臨床検査学科=17.7% ・看護学科=100%</p> <p>看護は100%達成。理学・作業については、現在、就活の佳境を迎えており、来月にはその収穫期を迎える。臨床は国試終了後に再開。</p> <p>10月1日 現在 学部内定率 =68.4% 理学療法 =71.8% 作業療法 =80.0% 臨床検査 =17.7% 看護 =100% 同日現在 学部 実就職率 =51.0%</p>	<p>10月1日 内定率 =63.7% 実就職率 =59.1%</p> <p>10月1日 現在 コム社 =66.7% 福祉Mgt. =68.8% 心理 =72.4% 同日現在 学部 実就職率 =35.8%</p> <p>10月1日 現在 学部内定率 =68.4% 同実就職率=68.4%</p> <p>・理学療法学科=71.8% ・作業療法学科=80.0% ・臨床検査学科=17.7% ・看護学科=100%</p> <p>看護は100%達成。理学・作業については、現在、就活の佳境を迎えており、来月にはその収穫期を迎える。臨床は国試終了後に再開。</p> <p>10月1日 現在 学部内定率 =68.4% 理学療法 =71.8% 作業療法 =80.0% 臨床検査 =17.7% 看護 =100% 同日現在 学部 実就職率 =51.0%</p>	<p><外国語学部> ・4年生については10/1就職内定率80%を達成できなかった。 ・国際ビジネス上位クラスは目標数値達成(90.3%)、他クラスの目標設定に向けた課題検討、改善を図る。 ・3年生については、全員個別面談を通して早めに就活をスタートさせるよう促していく。</p> <p><経営学部> ・4年生については10/1就職内定率80%を達成できなかった。 ・3年生については、全員個別面談を通して早めに就活をスタートさせるよう促していく。</p> <p><人間学部> もう一段の内定率向上を達成するには、やはり1・2年生での方向付けが必要である。今年度は心理よりもコム社の方が進捗が遅いので、今後はふじみ野キャンパスでの面談等が重要になると考えられるため、その支援施策を年度内に策定したい。</p> <p><保健医療技術学部> ・看護の求人は他職種とは異なり、春先の3月から選考試験が始まることから、早期の就活に沿って、3年生からガイダンスを実施。 ・理学作業は、前期は病院実習で就活は叶わないため実習帰校後の8月のPTOT合説を皮切りに就活を開始し、11月までを目途に90%超の内定を獲得する日程で、今後もしっかり取り組んでいく。 ・臨床は、前期の卒研修後に就活を開始。応募書類の提出期限も定められているので次年度以降は、もう少し早目の取り掛かりを促していきたい。</p>

2023年度 キャリア戦略

PLAN(計画)
<p>P:目標を策定、実現するための具体的な方法を考える。</p> <p><外国語学部> ■就職内定率時期的向上 10月1日就職内定率80%以上 <継続課題></p> <p><経営学部> ■一般企業就職希望者就職内定率時期的向上 10月1日内定率80%以上 (前年実績63.7%)</p> <p><人間学部> ■一般企業就職希望者 就職内定率時期的向上 10月1日時点での内定率60%以上 (前年度実績58.2%=もう一息) ※専門職除く</p> <p><保健医療技術学部> ■医療機関就職希望者 就職内定率時期的向上 10月1日内定率60%以上 (前年実績51.0%) ※看護学科は98.8% ※他3学科は就活初期時期</p>

2022年度 キャリア戦略(結果)

PLAN(計画)	DO(実施)		CHECK(評価)		ACTION(次の改善)
P:目標を策定、実現するための具体的な方法を考える。	D:計画を実行しその効果を測定する。	実施状況(実施率)	C:目標とその実践の差異、実践した行動の評価・分析を行う。		A:課題や問題点についての改善、対策を行い、次の「PLAN」へ繋げる
			評価	評価の理由/課題/根拠データ等	
<p>4. ■キャリア支援の質的向上 I キャリアセンター支援施策 就活環境変化への対応 ①外国語学部冬季模擬面接会協働支援策計画・実施</p> <p>【人間学部】 ・3年生向けイベントへの誘致、低学年向け対策講座の実施、プログラムの見直しを行い、ブラッシュアップを図る ・キャリアサブゼミの検討、学生相談室との情報の共有化の検討、ただし、来談内容の秘密保持との整合性の検討</p> <p>【保健医療技術学部】 ・キャリアセンターで病院・施設見学時の見学のしかた、履歴書の書き方、面接の受け方を指導する。</p> <p>②目的:「改革総合支援事業」採択 目標:「学修成果について産業界との協議」実施 手段:「本学に特化した企業、関係機関・団体へのヒアリング」実施 内容: I 企業等が学生に求める能力 II 採用時にどのような情報が必要としているか 期限:前期中</p> <p>③目的:同上 目標:「卒業後のアンケート調査後、結果分析及び教育成果の検証」 期限:前期中</p>	<p><外国語学部> ①後期に「キャリアデザインII」履修者対象に冬季模擬面接会を実施する。 ②企業・病院・施設からのヒヤリングに継続して取り組んでいる。 ③各学部のキャリア委員会で、「卒業後のアンケート調査後、結果分析及び教育成果の検証」に取組み、報告書を作成する。</p> <p><経営学部> ②企業・病院・施設からのヒヤリングに継続して取り組んでいる。 ③各学部のキャリア委員会で、「卒業後のアンケート調査後、結果分析及び教育成果の検証」に取組み、報告書を作成した。</p>	<p>外国語学部新規模擬面接会企画実施・参加率95%以上及び受講満足度獲得</p>	<p><外国語学部> 授業が原則対面実施となったことを踏まえ、キャリア支援イベントも対面実施の割合を増やしている。個別面談は引き続き学生の要望に応じて対面とオンラインを併用している。 ①本年度より、学生の就活意識向上及び実践力養成のため、全員参加の模擬面接会実施(11/26・12/10) ②アマン東京と意見交換を行い、ヒヤリングした内容をキャリア教育に取り込んでいる。</p>		<p><外国語学部> ①引き続き新型コロナウイルスの感染拡大状況に鑑み、また企業の採用面接状況も踏まえ対面支援とオンライン支援を併用していく。 ②本年度より、学生の就活意識向上及び実践力養成のため、就職模擬面接会実施回数を1回から2回に増やした。参加企業数は前年の13社から24社に増加した。本面接会実施を通じて、参加企業とのパイプを太くすることができた。 ③アマン東京と意見交換を行い、ヒヤリングした内容をキャリア委員会で報告し、キャリア教育に取り込んでいる。また同社のインターンシップに学生が参加した。 ④卒業生・就職先アンケート調査結果報告の分析をキャリア戦略会議より全学教務委員会に依頼した。</p>
	<p><人間学部> ・各種キャリア支援イベントへの参加率の向上 ・低学年生および本郷キャンパス移動後の3年生におけるキャリアセンターとのつながりの構築</p>	<p>各学科別就職ガイダンス・試験対策講座を順次開講開始</p>	<p><人間学部> ・キャリア支援イベントの参加率について、コロナ禍も収束の方向に向かったことから、3年生の春秋の進路面談も対面で再開し、より身近な支援を行える環境となった。 ・コミ社1年の必修授業で、キャリアセンターによる講演を予定。その他「つながり構築」に関係する施策について、夏季の企業見学会も再開し、多数の1,2年生が参加。訪問先でもモチベーションの高い質疑応答を行えたことから、初年次での意識向上に向けた支援施策も重点に置いていきたい。</p>		<p><人間学部> 上記1.と同様。</p>
	<p><保健医療技術学部> 卒業生の調査・検証結果から教職員間で連携し、学生への指導・サポートに活かしていくこととする。</p>	<p>5月の臨床のOBOG就職相談会以降は7,8月に開催</p>	<p><保健医療技術学部> 改革総合支援事業の一環として、卒業生の就職先に、本学の学生や教育などに求めるものをヒヤリングし、その回答を学部進路支援委員会にて協議を行ない、次年度以降への学生指導・支援に反映させていくこととする。また、例年晩秋に実施している卒業3年経過の卒業生ならびに就職先へアンケートも実施しており、それらの結果を分析して、同様に次年度以降への学生指導・支援に反映させていくこととする。</p>	<p>左記内容を受けて、10月までに各学科の先生方から、その対応検討事項をご提示いただき、11月2日の進路支援委員会にてご確認の上、これからの学生指導に反映・活かしていく。</p>	<p><保健医療技術学部> 同左の結果を踏まえて、第四四半期において次年度へのActionを策定する。</p>

2023年度 キャリア戦略

PLAN(計画)
P:目標を策定、実現するための具体的な方法を考える。
<p><外国語学部> ■キャリア支援の質的向上 I キャリアセンター支援施策 就活環境変化への対応 <継続課題></p>
<p><経営学部> ■キャリア支援の質的向上 I キャリアセンター支援施策 就活環境変化への対応 ①目的:「改革総合支援事業」採択 目標:「学修成果について産業界との協議」実施 手段:「本学に特化した企業、関係機関・団体へのヒアリング」実施 内容: I 企業等が学生に求める能力 II 採用時にどのような情報が必要としているか 期限:前期中 ②目的:同上 目標:「卒業後のアンケート調査後、結果分析及び教育成果の検証」 期限:前期中</p>
<p><人間学部> ・3年生向けイベントの動員向上 ・低学年の段階からキャリア意識を向上させる施策の検討(特にキャンパス移行のあるコミ社・福祉マネ) ・成績、入試、PROGなど既存データと就職活動の分析可能性を検討</p>
<p><保健医療技術学部> 目的:「改革総合支援事業」採択 目標:「学修成果について産業界との協議」 実施手段:「本学に特化した医療機関へのヒアリング」実施 内容: I 病院等が学生に求める能力 II 採用時にどのような情報が必要としているか 期限:前期中にヒヤリング 検証:「卒業後のアンケート調査後、結果分析及び教育成果の検証」 期限:前期中に進路支援委員会にて検証</p>

2022年度 キャリア戦略(結果)

PLAN(計画)	DO(実施)		CHECK(評価)		ACTION(次への改善)
P:目標を策定、実現するための具体的な方法を考える。	D:計画を実行しその効果を測定する。	実施状況(実施率)	C:目標とその実践の差異、実践した行動の評価・分析を行う。		A:課題や問題点についての改善、対策を行い、次への「PLAN」へ繋げる
			評価	評価の理由/課題/根拠データ等	
<p>5. ■キャリア支援の質的向上II ①キャリア教育科目改善継続実施 アセスメントによる効果測定 就活環境変化への対応 ②外国語学部冬季模擬面接会協働支援策計画・実施 ③キャリア科目学修効果可視化への取組</p>	<p><外国語学部> 2021年度3年次キャリア科目必修化元年度の就職進捗率及び結果をクラス毎に調査し、効果検証する。</p>	<p>外国語学部キャリア科目上位クラス10月1日内定率80%以上</p>	<p><外国語学部> 前後期アセスメントテスト6回実施→今後集計分析実施 キャリア教育に関しては、クラス人数および内定結果のアンバランスが生じている。</p>		<p><外国語学部> 新科目導入は見送り、理由として、今回の実証結果から、現状未達クラスの改善を優先する。3年生は、後期に模擬面接会を実施し、学部全体の就活、進路への意識を高める方策を実施し、実践による経験値を高める。</p>
	<p><経営学部> ①学生の就職活動への意識を早期に動機づけるために、2023年度新カリキュラムにおいて、キャリア関連科目を、1)必修化、2)低学年履修に繰り上げ、の観点で整理した。</p>		<p><経営学部> ①左記の1)、2)の方針に従い、具体的な科目の設定を行った。経営学部では2023年度より2学科制に移行する。これに伴い新カリキュラムについても文科省に申請する必要がある。上記具体的な科目につき、文科省に申請し、受理された。</p>		<p><経営学部> 左記1)、2)の方針に従い、キャリア関連科目を次のように整理した。 ・キャリアデザインⅠ:1年次前期配当、必修 ・キャリアデザインⅡ:1年次後期配当、選択 ・キャリアデザインⅢ:2年次前期配当、選択 ・キャリアデザインⅣ:2年次後期配当、選択 また、短期インターンシップを、従来は2年次配当だったのを1年次配当に変更することにした。</p>
<p>6. ■インターンシップ質的・量的向上 ①ポストコロナにおける海外インターンシップの再開準備及び実施 ②新規ミッション型海外インターンシップの開発</p>	<p><外国語学部> ①WITHコロナにおける海外インターンシップ再開を試みる ②学部魅力化を目的に、ミッション型新規海外インターンシップ開発 ③長期留学型海外インターンシップ開発 ④国内長期新規インターンシップ開発 ⑤自己開拓型インターンシップ推進 ⑥キャリア科目におけるインターンシップ準必修化</p>	<p>①渡航型海外インターンシップ 夏・春再開2本実施②自己開拓型インターンシップ対前年50%アップ</p>	<p><外国語学部> ①夏期インターンシップ大学紹介:国内11名、海外3名、学年内訳3年12名・2年1年各1名であった。3年ぶりに渡航型海外が実施できたのは収穫であるが、低学年層の参加を2年生からの就活情報活用に関する三省合意を踏まえ自己開拓含め参加率を向上させる必要がある。</p>		<p><外国語学部> 春季インターンシップ海外10名、国内新規5社10名参加。本学部の魅力化、学生の就業実践力を目的に、長期インターンシップの新規開発を準備する。インターンシップの重要性、早期化を踏まえ、早期に自分の人生を考える機会を創出する。</p>
	<p><人間学部> 前年度以上のインターンシップ参加率を目指す。</p>		<p><人間学部> 個々の学生の全てのインターンシップの参加状況を正確に把握出来ている訳ではないが、前年度比では、夏場のコロナ禍の感染状況が、前年よりかは収まった環境もあり、面談時でのヒヤリングでは相当数の参加状況となり、これから冬季にかけても更なる参加を促している。福祉キャリアインターンシップは、開始以来学年が上がるしたがってA→B→Cと進み、今期始めてCタイプを実施。必修の学生は全員参加となった。</p>		<p><人間学部> インターンシップ関連で問題点・解決策として、心理では3年生の春の進路面談で、夏季のインターンシップには必ず参加するよう重点的に促してはいるが、やはりまだ不参加の学生も散見されている。要因としては、1)アルバイトの都合で参加出来なかった、2)自分がどの業界・職種に興味があるのか分からないまま時間が過ぎていった、3)参加に二の足を踏み、今一歩前へ進むことが出来なかった などネガティブな要因を払拭する支援も必要かと考える。+ゼミの先生方とも協働し、6月の解禁から、早めの参加予約・エントリーを面談のその場でボタンを押すなど、きめ細かなサポートも必要。</p>

2023年度 キャリア戦略

PLAN(計画)
P:目標を策定、実現するための具体的な方法を考える。
<p><外国語学部> ■キャリア支援の質的向上II キャリア教育科目改善継続実施 アセスメントによる効果測定(実施) <継続課題></p>
<p><経営学部> 授業内容を事前に定め、担当する非常勤講師の選定に際しては科目適合性を重視し、採用につなげることができた。来年度は具体的な授業内容についてPDCAサイクルを回していく。</p>